

令和7年度 クリーニング部会研修会

令和7年9月2日から3日の2日間、東京都の日の出町と八王子市を会場に、令和7年度クリーニング部会研修会を開催しました。研修会には北は北海道から南は熊本まで、過去最高の43名の皆さんに参加いただきました。

初日は、東京リハビリ協会日の出事業所で開催されました。



高江会長開会挨拶



当日は、9月に入ったにもかかわらず35度を超える猛暑日。クリーニング工場内の高温を考慮いただき、最初にスライドを使って東京リハビリ協会の齊藤業務執行理事から法人の概要と作業内容の説明をいただきました。



●観賞魚リリース事業



●ウエス事業



●あわび養殖事業



●クリーニング事業



機械化された設備や、日本で初めて独自開発・導入されたラインなど様々部分で工夫されていて、参加者からは「勉強になった」「施設に持ち帰って検討したい」などの声が多く上がっていました。

●講演 東京リハビリ協会 業務執行理事 齊藤 公生 氏

「クリーニング・リネンサプライ事業について」～障害者就労福祉の現状と今後の展望について～

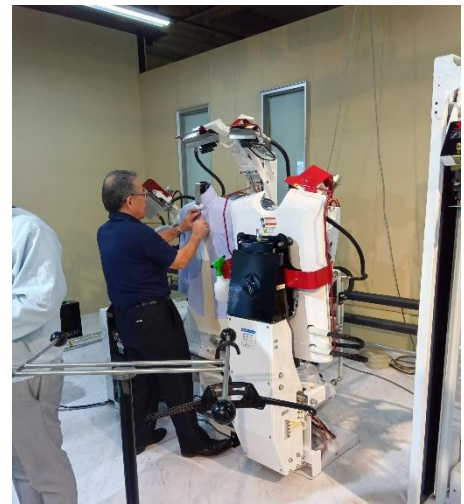
工場見学の後は、日本セルフセンターの初代会長で、全国社会就労センターの元会長でもあった、東京リハビリ協会業務執行理事の齊藤公生様から講演をいただきました。

特に、講演の中で、措置制度から支援費制度障害者自立支援法になり、福祉工場や授産施設が A 型や B 型事業になっていった過渡期について、当時会長として国との交渉にかかわった経験をもとに話された点については、世代交代が進み当時を知らない世代が増えている昨今、参加者から当時の経過について初めて聞いたとの声が多く寄せられました。また、利用者の工賃向上の取組にも様々なデータをもとにお話をいただきました。この転移についても参加者からは、改めて自分の施設の取組の見直しのきっかけになったとの声が聞かれました。



■研修2日目は、八王子市で様々なクリーニング機器を製造販売している、株式会社三幸社様に会場を移して行われました。

●工場とショールームの見学



ショールームには、最新のトンネルフィニッシャーや衣類の自動折り畳み機などの最新の機器が数多く展示されていただけでなく、コンビニの居ぬき物件を想定した広さのクリーニング工場を想定し、一日1トン従業員8名等と具体的な規模を想定した工場を見立て、必要な機器を並べた展示場などもあり、参加者からは工場の整備やラインの見直しに大変参考になったとの声が多く上がっていました。

●講話 三幸社ホールディングス株式会社
代表取締役社長 打越 裕介 氏

工場見学の後、打越社長から詳細なデータに基づいた「私物洗濯ビジネスの今後についての展望」のお話をいただきました。都道府県別にどれだけの私物洗濯の需要があるかなどについても、病院、介護施設、一般家庭など具体的に詳細なデータを出して、人口が減少していく社会の中での今後の需要を導き出していました。将来の事業展開に向けたマーケティングの必要性について大変ためになるお話が聞けました。就労系の施設にとっても事業展開していくうえで、マーケティングの必要性について改めて考える良い機会になりました。



最後は、日本セルフセンターのクリーニング部会担当、福田理事から閉会の挨拶があり2日間に渡った研修会を終了しました。



●参加者の声

- ・クリーニングだけでなく、熱帯魚、あわび養殖など普段見られない、面白い経験をした。
- ・シーツの投入機の最新を見学できて大変満足した。
- ・シーツを1枚ずつほぐす、バスタオル、フェイスタオルなどを自動でたたんでいる等、多くの部分が機械化、効率化されていることに驚いた。
- ・クリーニングについては、重度の障害のある方でも参加、高工賃を目指せる事業であることを学んだ。
- ・何年に法制度化されたかは、学ぶことはできても、その背景や制度化されるまでのお話は知ることはできないためとても貴重な経験でした。
- ・今後の設備に関するレイアウトの参考になりました。
- ・ランドリー機器の体験と見学が出来、大変満足しています。
- ・未来を見据えての人口減とビジネスモデルとの関係が良く理解できました。
- ・社会問題の解決を誰がやるという事に、目を背けずそこにビジネスチャンスを見出されておられることに感銘を受けました。
- ・私物洗濯の私見が広がった。
- ・先を見据え、分析してビジネスをより長く続くものにして行くことに感銘を受けました。
- ・地域の在宅の人達の事については、何かできないかと思っていました。打越社長のお話を頂き、自分の目線は間違っていないんだと思いました。ありがとうございました。